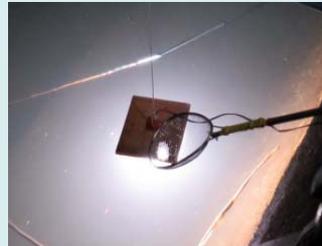


ウナギ資源保護対策研究 — シラスウナギの採捕状況 —

漁場環境部 研究専門員 平江多績

目的: 周年採捕調査により、遡上時期や遡上量を把握する。

方法等 ・原則として新月頃の2日間で日没後の満潮までの2時間、調査員2名で集魚灯を用いる手すくい網
 ・全長、体重の測定、顕微鏡下で黒色素の発現状況により発育段階を9段階で判定

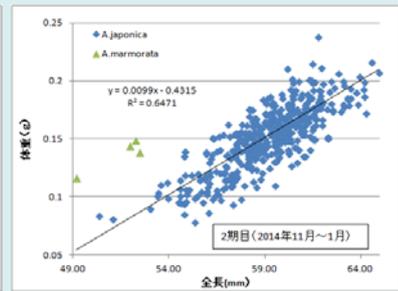
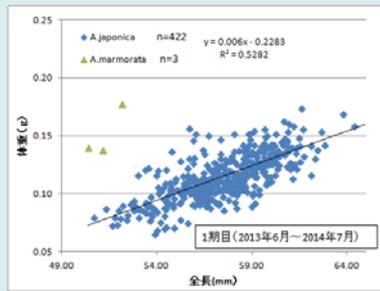
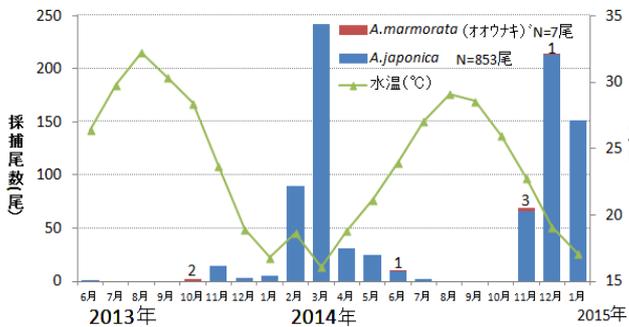


調査場所: 指宿市二反田川左岸

水面下約10cmの灯火 (白熱電球 100W相当)

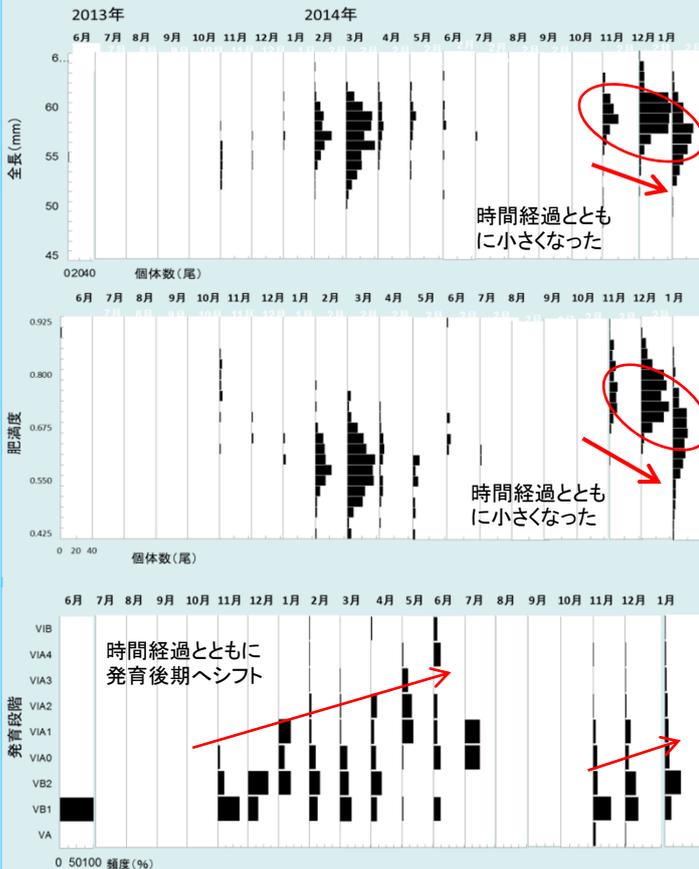
Anguilla japonica (ニホンウナギ)

結果 2013年-2014年漁期では3月に採捕数量のピークがあった。
 2014年-2015年漁期は、前シーズンより早く取れ始め、全長、体重、肥満度ともにも大きかった。



TL57.67mm BW0.117g BMI0.605(ave) TL59.2mm BW0.152g BMI0.727(ave)

月別シラスウナギ採捕尾数と水温



月別組成(全長・肥満度・発育段階)

漁期ごとのシラスの全長と体重の関係

採捕群の全長と肥満度は時間経過とともに小さくなる傾向がみられた。
 採捕群の発育段階は時間経過につれて、発育後期にシフトした。

9段階の発育段階は、写真矢印印頭の上、測線周辺部、尾鰭の色素の発現状況で区別する。
 透明度の高い個体は発育前期で若い個体、黒色素の発現が多い個体は発育が進んだ個体である。

発育段階の区分

VA→VB1→VB2→VIA0→VIA1→VIA2→VIA3→VIA4→VIB

